

国民の審判で「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2012年11月15日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

介護の日 介護する人も、される人も笑顔になれる介護制度を！

札幌では、シンポ（10日）110番（11日）パネル展（11.12日）北見でも

11月11日の「介護の日」に合わせて、各地で介護相談や介護制度の改善をもとめる取り組みが行われました。

シンポ 診療報酬改悪の影響も明らかに



10日夜に開かれたシンポジウムでは、森永伊紀さん（ヘルパー全国連絡会事務局長）の基調講演が行われ、5分野から4月介護報酬改定以降の影響が

明らかになり、報酬再改定をはじめとする緊急のとりくみをすすめる力となるシンポジウムでした。

『訪問看護』では「入院から在宅への誘導で、医療費負担が重いがん患者が増えている。看護師不足で受けられない。40歳未満は介護保険が利用できず、福祉用具の負担が重い」。『訪問介護』では「生活援助の時間区分変更で、利用者負担が増える場合や時間短縮で清掃、調理など十分できない場合も。経営難で閉鎖する事業所も」。『ディサービス』では「時間区分の変更で従来の時間では事業所の収入が減るので時間延長したが、高齢者の負担も増え、労働者の残業も増えている」。『グループホーム』では「利用者負担が高く低所得者は利用できない。少ない特養の入所待機に場になっている。認知症や医療依存度の高い入所者を少ない体制で安い賃金が行っている。それでも働いているのは、高齢者の笑顔や『ありがとう』の言葉があるからです」。『労働者』からは「他産業より10万円安い賃金。今後100万人以上必要になるが、低賃金と劣悪な労働条件で2009年度から、職員数が減少になっている」

110番 深刻な介護の相談あいつぐ

11日には、なんでも介護相談も行われ、新聞や当日報道されたテレビなどで電話がありました。長年、家族介護している方からの相談もあり、必要な介護が利用できていない現実も明らかになりました。



パネル展 高校生も、高齢者も 署名に協力



11, 12日、大通地下広場で開催した、パネル展&署名行動には、多くの高校生が訪れ、「将来介護で働きたいと思っているので」など、初々しい声が寄せられました。高齢者からも「保険料を勝手に上げられて年金がどんどん減ってしまう。どうしたらいいんだ」と怒りの声が数多く出されました。11日だけで、339筆の署名が寄せられました。（「介護に笑顔をニュース」より）

北見 介護を身近に知ってもらう企画

11日、オホーツク勤医協・介護ウェブ推進委員会が、介護を良くしていくには、介護を身近に知ってもらうことから、市内の大型スーパーマーケットで、ふまねっと体験、包括支援センターの活動紹介、「長生きはお口の手入れから」と題する訪問看護師による講演なども行いました。署名も71筆集まりました。あったかトナカイ君も活躍しました。



小樽社保協 「いい介護がしたい！ 安心できる介護を！」 求める交流集会

11月21日（水）18:30～ 場所 生涯学習プラザ 6号室（小樽市 稲穂小正面地下）

◆小樽市介護保険課長も「生活援助の時間区分変更に関わる調査」を報告します。

介護講演会 「新聞記者の見た『介護保険』」

講師 内藤真己子さん（新聞あかはた記者）

11月23日（金・休日）13:30～ 場所 札幌市教育文化会館

資料代 500円

